

エネルギー環境委員会 「エネルギー・環境関連施設視察会」を開催

平成30年11月14日(水) 20名参加のもと、島根原子力発電所及び菅谷^{すがや}たたら高殿^{たかどの}の視察会を実施した。



■島根原子力発電所

最初に、島根原子力館にて長谷川千晃中国電力執行役員島根原子力本部副本部長から、島根原子力発電所の安全対策について説明をいただいた。その後、発電所構内に入り、免震重要棟の視察を行った。当日は緊急時対応訓練を翌日に控え準備が進められており、施設内には緊張感が漂っていた。同施設の横には更に安全性を高めた耐震の重要棟が新たに完成しており、緊急時の対応施設が幾重にも設置されているとの説明であった。

続いて、津波を防ぐ防波壁等構内の安全対策設備をバス車中から視察。海拔15m防波壁も間近で視察することができた。また、当日は天気も良く、遠く沖合には隠岐諸島を眺めることができた。

その後、通常の見学では入ることができない島根原子力発電所3号機の建物内を視察。3号機は運転開始前であり特別な防護や放射線管理もなく視察を行うことができる。運転開始後は立ち入りの難しい設備(制御棒駆動機構、圧力抑制室など)の視察も行い、参加者からは貴重な経験との感想もあった。原子炉格納容器が建物と一体化されている新型炉のため、圧力抑制室はとて大きく、参加者もその規模の大きさには驚きの様子であった。

【参考】中国電力(株)島根原子力発電所は島根県松江市に国内5番目に建設された原子力発電所。全国で唯一県庁所在地(松江市)に立地。

・1号機(出力46万キロワット)

国産第1号として昭和49年3月に運転開始。平成28年7月に、原子力規制委員会に廃止措置計画認可申請書を申請し、平成29年4月同委員会の認可を受け、約30年をかけて廃止措置が行われる。

・2号機(出力82万キロワット)

平成元年2月に運転開始。平成25年12月に原子力規制委員会による新規制基準の適合性確認を申請。現在審査中。

・3号機(出力137.3万キロワット)

平成18年10月から建設開始。平成30年8月に原子力規制委員会による新規制基準の適合性確認を申請。現在審査中。

■菅谷たたら高殿

中国地方一帯では、古くから「たたら製鉄」が盛んに行われ、中でも奥出雲地方で産出される鉄は、質、量とも群を抜いていたが、その中心的存在が「田部家」であった。菅谷高殿^{さんない}*は田部家が経営していた数あるたたらの高殿のなかで、名実ともにその中心をなしていたもので、最盛期の文政年間(1818~1829)には、年間200トンもの鉄を生産していた。高殿様式で現存するものとしては全国唯一で、昭和42年に国の重要文化財に指定された。当日は、公益財団法人鉄の歴史村地域振興事業団菅谷高殿・山内生活伝承館 朝日光男施設長にご同行いただき古来の製鉄法についてご説明いただいた。

※砂鉄からたたらを吹いて製鉄する建物



(担当：中祖)